病態解析検査学特論Ⅱ（Advance of Pathophysiological AnalysisⅡ）

担 当 教 員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
森 啓至、小菅 優子	１年次 後 期	選択	2	30	講義	あり	巻末掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	生活習慣が引き金となって発症する可能性もある認知症の病変の一つとして認識されている嗅覚異常について解説する。ヒト嗅覚系の基礎及び、これら疾患での臨床検査領域の視点から見た現状と問題点、そして解決策について討論していく。また、生活習慣病の予防に役立つ発酵食品について、大豆発酵食品の高血圧防止効果、生活習慣病や長寿に関する因子などについて学修する。 課題に対するフィードバック方法／レポートに対して討論するほかコメントをつけて返却する。 実務家教員（森、小菅）が講義を進める。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「専門職業人として医療に対する幅広い知識と技能を駆使し、高度な臨床検査を実践できる。」及び③「健康に対する社会的ニーズを認識するとともに、グローバルな視野を持ち、科学的根拠に基づき、自ら考え、判断し、課題解決に向けて対応することができる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	1. アルツハイマー型認知症に対する治療方法や検査法を説明できる。 2. 認知症対策について、現状と問題点について説明できる。 3. 大豆発酵食品の機能について理解し、説明できる。 4. 発酵食品の有する生活習慣病予防因子、長寿因子について説明できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	第1回～第15回事前学習：事前に計画されている単元について予習を行っておく／分からない用語については調べておく（各30分） 第1回～第15回事後学習：講義内容で不明な点は、講義終了直後もしくはオフィスアワーを利用して質問するなどして明確にするよう努める／担当教員が配布する資料で復習を毎回30分程度行うこと。（各30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位15回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位15回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画			
	第 1 回	アルツハイマー型認知症の初期病変	森 啓至
	第 2 回	アルツハイマー型認知症診断のための各種検査	森 啓至
	第 3 回	アルツハイマー型認知症早期診断のための臨床検査	森 啓至
	第 4 回	嗅覚系の解剖と嗅覚機能の基礎的知識	森 啓至
	第 5 回	嗅覚検査の原理と実際	森 啓至
	第 6 回	嗅覚異常とアルツハイマー型認知症との関連	森 啓至
	第 7 回	パーキンソン病と嗅覚異常	森 啓至
	第 8 回	発酵食品と生活習慣病１（講義）	小菅優子
	第 9 回	発酵食品と生活習慣病２（ゼミ）	小菅優子
	第 10 回	発酵食品と生活習慣病３（ゼミ）	小菅優子
	第 11 回	発酵食品の長寿因子と健康１（講義）	小菅優子
	第 12 回	発酵食品の長寿因子と健康２（ゼミ）	小菅優子
	第 13 回	発酵食品の長寿因子と健康３（ゼミ）	小菅優子
	第 14 回	人体のホメオスタシスに関わる発酵食品の役割１（講義）	小菅優子
	第 15 回	人体のホメオスタシスに関わる発酵食品の役割２（ゼミ）	小菅優子

評価方法 評価基準	レポートで評価する（100%）		
教科書	特に定めない	参考書等	担当教員が資料を配布する。
学生への メッセージ	認知症はこれからの社会において避けては通れません。認知症は神経変性疾患が主な要因と考えられます。発酵食品による健康長寿について考えましょう。		